

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-99084

(43)公開日 平成9年(1997)4月15日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 M 16/06			A 6 1 M 16/06	A
A 6 2 B 7/00			A 6 2 B 7/00	

審査請求 有 請求項の数 3 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平7-282380

(22)出願日 平成7年(1995)10月5日

(71)出願人 595153767

林 實

東大阪市大蓮南4丁目19番2号

(72)発明者 林 實

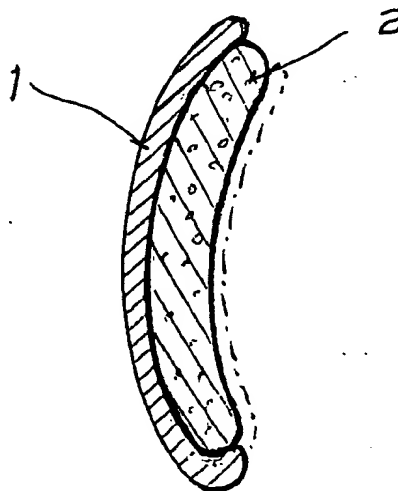
東大阪市大蓮南4丁目19番2号

(54)【発明の名称】 呼吸器官、鼻、口腔内等の医療ならびに保健用マスク

(57)【要約】

【目的】 この発明は健康人らには鼻、口腔内に常時自然的に一定の湿度を付与し、風邪等の疾患の発病予防を完全にはかると共に呼吸器官、耳鼻等の疾病者には該病気の悪化進行を阻止し、以て早期の治療をその主な目的とする呼吸器官、鼻、口腔内等の医療ならびに保健用マスクを提供しようとするものである。

【構成】 通気性良好な繊維素材にて有底袋状に形成した袋体1の上記袋体1の内部に水、または香料、薬液等の水液を含浸せる含液体2を装着または交換自在に装填せしめたことを特徴としている。また上記袋体1の内部上辺、鼻孔位置に相当する箇所に、補助溝3を併設し、該補助溝3内に水、または香料、薬品等の薬剤4を装填せしめるように構成することも、更に、袋体1の略中央部分に通気孔7を開口してなる通気調整用の通気具6を脱着自在に取付けすることも出来得る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 通気性良好な繊維素材にて有底袋状に形成してなる袋体1の上記袋体1の内部側に水、または香料、薬液等の水液を含浸せる含液体2を装着または取替え交換自在に装填せしめたことを特徴とする呼吸器官、鼻、口腔内等の医療ならびに保健用マスク。

【請求項2】 上記請求項1項記載の医療ならびに保健用マスクにおいて、上記袋体1の内部上辺、鼻孔位置に相当する箇所に、通気性良好な繊維素材にて形成してなる補助溝3を併設し、該補助溝3内に水、または香料、薬品等の薬剤4等を装填せしめるように構成せしめたことを特徴とする呼吸器官、鼻、口腔内等の医療ならびに保健用マスク。

【請求項3】 上記請求項1項記載の医療ならびに保健用マスクにおいて、袋体1の略中央部分に通気具取付け孔5を開口設け、該通気具取付け孔5に中心箇所に通気孔7を開口してなる空気量調整用通気具6を脱着自在に取付けせしめたことを特徴とする呼吸器官、鼻、口腔内等の医療ならびに保健用マスク。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は健康人らには鼻、口腔内に常時自然的に一定の湿度を付与し、風邪等の疾患の発病予防を完全にはかると共に呼吸器官、耳鼻等の疾病者には病気の悪化進行を阻止し早期治療をその主な目的とする呼吸器官、鼻、口腔内等の医療用マスクに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 通常、風邪等の予防対策としては数多くのマスクが開発され使用されているがこれらの殆んどは冷気を身体内に直接に吸い込みし呼吸器官等を徒らに冷却し、風邪等を惹起しようとする病因を予防しようとする単に通気性と保温のみを目的としているものにすぎなかったのである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来のマスクは上記の如く、単に通気性と保温のみを目的とするものであるから呼吸器官、鼻、口腔内等に最も必要とする湿度を呼吸と同時に体内に取り入れを行わしめることは不可能であり、特に既患者に至っては上記湿度の取り入れ手段として強制的に吸入器、投薬等再度にわたって長期間使用しなくてはならず故にかかる治療手段が原因？にて呼吸器官、鼻疾等の早期回復が全く得られていないという現状である。この発明は上記問題点を鑑みて、昼間はもとより就寝中においても常時、自然的且つ完全に一定量の湿度を口腔、鼻腔内に付与し、しかも呼吸器官等の疾病者には薬材を自然的に吸い込みさせ、該疾病の早期治療をはかると共に特に投薬の困難な患者にも安心して使用することの出来得る医療ならびに保健用マスクを汎く提供しようとするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上記の目的を達成する手段として、この発明の概略を例示する図面について説明すると、通気性良好な繊維素材にて有底袋状に形成してなる袋体1の上記袋体1の内部に水、または香料、薬品等の水液を含浸せる含液体2を装着または取替え交換自在に装填せしめたことを特徴とする呼吸器官、鼻、口腔内等の医療ならびに保健用マスクである。更に上記形状を有してなるマスクにおいて、袋体1の内部上辺、鼻孔位置に相当する箇所に、通気性良好な繊維素材にて形成せる補助溝3を併設し、該補助溝3内に適宜の薬材4を装填して鼻腔内の治療のみを目的としたもの、或いは袋体1の素材を上記通気性良好な繊維素材を用いることなく、例えば化学繊維、布シート、他の布帛等にて予め有底袋状の袋体1に形成し、かかる形状の袋体1の略中央部分に通気具取付け孔5を開口設け、該通気具取付け孔5に通気孔7に嵌合せる調整板8により外部からの空気量を任意量に調整出来得るようにした通気具6を取付け、かかる通気孔7及び含液体2を通して新鮮な外気をその必要量を薬剤と共に身体内に確実に吸込み行わしめることが出来得るのである。

【0005】

【作用】 この発明は上記の形状を有するものであって、予め必要とする水分、または薬剤等を含液体2に含浸し、該含液体2を袋体1の内部に装填する。かかる状態のマスクを口部分に装着するにおいて、外部の空気は人体の呼吸と合わせて袋体1を通し水分または薬剤等が口腔内に自然的に吸入し、これが口腔内はもとより咽喉、呼吸器官の深部及び鼻腔までの広い範囲にわたって所定の湿度を送給求めることが出来得るのである。従って、この発明に係るマスクを常用することによって、健康人においては常時一定の湿度を自然的に口腔内、咽喉等に付与し、以て風邪の主原因といわれている咽喉口内における乾燥を阻止し、風邪等の呼吸器系統の病原を確実に予防し、また呼吸器官等の患者には上記薬剤を治療目的とする薬剤を袋体1内に装填行わしめることによって、昼間時はもとより就寝時に自然的に吸入投薬をして状態を呈しその治療がより効果的で早期治療が行われることは謂うまでもない。

【0006】 また上記のマスクにおいて、更に袋体1の内部上辺、鼻孔位置に付設せる補助溝3内に薬剤4を装填して用いることによって、呼吸による吸入空気が直接に鼻孔近辺にまで上昇し、該空気が薬剤4と共に鼻腔内にまで確実に自然的に吸、導入し、以て従来構造のマスクの如く、薬剤により鼻下部分の粘膜を傷めることもなく鼻腔の治療はもとより該鼻腔と連通する耳内の炎症まで広範囲までの治療をも併せ行わしめることが出来る。

【0007】

【実施例】 以下、この発明の実施例を図面について説明

すると、1は通気性良好な繊維素材、例えばガーゼ、荒目布等にて有底袋状に形成してなる袋体にてその内部に水液等浸透性の含液体2を装填すべく構成されているもので、上記含液体2としては通常の水、蒸留水等の水を浸透させたもの、或いは液状の薬剤はもとより、散薬、粒薬または粉薬を包体したもの等、特に限定されるものではない。更に香料等を上記薬液に加入行わしめる場合もある。

【0008】また、この発明の他の実施例として、図3の如く、上記袋体1の内部上辺の鼻孔位置と相当する箇所、更に通気性良好な繊維素材にて形成せる補助溝3を縫合併設し、該補助溝3内に鼻薬等の薬剤4を装填して口腔内の医療と同時に鼻炎治療用としても使用することも出来得る。なおこの場合には鼻下と密着する箇所の袋体1上辺箇所に非通気性の材料を用いることによって薬剤による鼻下の荒れ現象を防止することは謂うまでもない。

【0009】またこの発明は、図4にて示す如く、袋体1の略中央部分に通気具取付け孔5を開口設け、該通気具取付け孔5に中心部分に通気孔7を開口してなる通気具6を取外し自在に装着し、吸い込み空気を口内に直接に集中的に送給するようにした構造、または上記通気具6内に薬剤を装填して吸入する構造、更に上記通気孔7に調整板8を拡縮自在に取付け、該調整板8の開閉作用によって通気孔7の径寸を拡縮し吸い込み空気量を任意に調整出来得るようにした構造とすることも一考である。なお上記通気具6構造を用いる場合には、マスク形成素材として通気性良好な繊維素材に代えて、例えば化学繊維、布シート、他の布帛等を使用することも可能である。

【0010】

【発明の効果】この発明は上記の如く、有底袋状に形成してなる袋体1の内部に予め、水液、または薬剤等を含侵せる含液体2を装填してなるものであるら、常人がこれを口部に装用するにおいて、呼吸と同時に上記含液体2に含侵せる水分が自然的に口腔内を通して咽喉奥まで湿度を与え、以て風邪引き等の呼吸疾患の発生を未然に予防するは勿論、特に就寝中においてはその効果が絶大であり、更に呼吸器官等の疾病患者に至っては単に上記含液体2に薬液等を含侵せるマスクの装用にて何等の医

療器具等を使用することなく、含侵薬剤を直接、広範囲にわたって咽喉、呼吸器官の深部にまで確実に送給し、以て早期の治療はもとより完全なる治療対策が容易に求め得られる等顕著な医療効果を有している。特にこの発明による場合には全体形状がマスク形状にて形成してなるものであるから外觀上意匠的においても何等の阻滅する憂いもなく、如何なる箇所においても即時にて容易に使用することが出来得、且つ使用素材も衛生的にて量産に適し安価にて提供出来得る等経済的效果をも合わせ有している。

【0011】また請求項2項記載の如く、袋体1の内部上辺、鼻孔位置と相当する箇所に、更に補助溝3を形成設け、該補助溝3内に鼻薬等の薬剤4を装填行わしめることによって上記呼吸器官、口腔内の医療と同時に鼻炎治療用として使用出来得、特に従来課題とされていた鼻孔下辺における薬品による肌荒れ防止の効果がある。

【0012】更に請求項3項記載の如く、上記袋体1の略中央部分に通気具6を装着することによって口部分周辺に水分を殆ど拡散することなく有効且つ確実に湿気のみを口内深くに集中的に送給することが出来得、従って衣服等を濡損する等の憂いも毛頭なく、更に上記開口通気孔7を調整板8により拡縮自在とすることによって必要量の空気量を任意に調整出来得、以て老人、乳幼児らに対しても最も適した範囲で湿気、薬剤等の吸い込み量が容易確実に求めることも出来得る。なお、この発明は上記口腔内、鼻、呼吸器官等の医療ならびに保健用として以外に香料、清涼材等の使用により口中内の悪臭を防止し常時、爽快な気分を齎らしめる等の二次的效果をも併せ有した至便な健康用マスクである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この発明に係る医療ならびに保健用マスクの全体図、

【図2】 この発明の要部の拡大断面図、

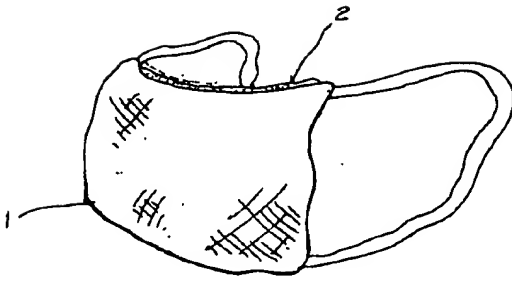
【図3】 他の実施例によるマスクの全体図、

【図4】 同上、要部の拡大断面図である。

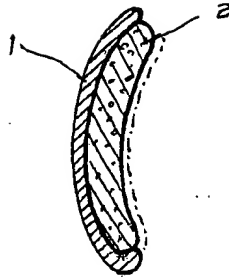
【符号の説明】

- 1 袋体
- 2 含液体
- 3 補助溝
- 4 薬剤

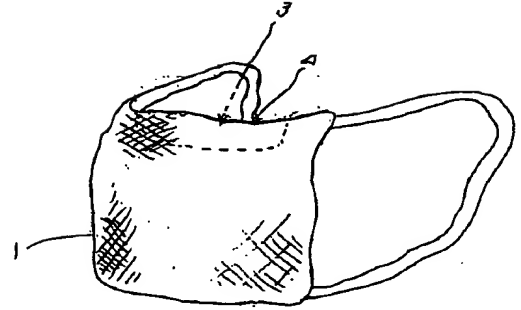
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

